

理論編  
実践編

宇宙意識という視座

# Dr. for the Earth

地球のお医者さん

平井孝志

オーガニック農法・農業編・畜産編

オーガニックで健康ライフ

## 生命の系

循環と共生の根理

科学と経済の陥穽

## 物質の系

第二部  
實踐編



## 苗作りにひたむき四半世紀

藤波農園 藤波

修二  
真由美

苗も子供も根っこが大切

子供の根っこは家庭

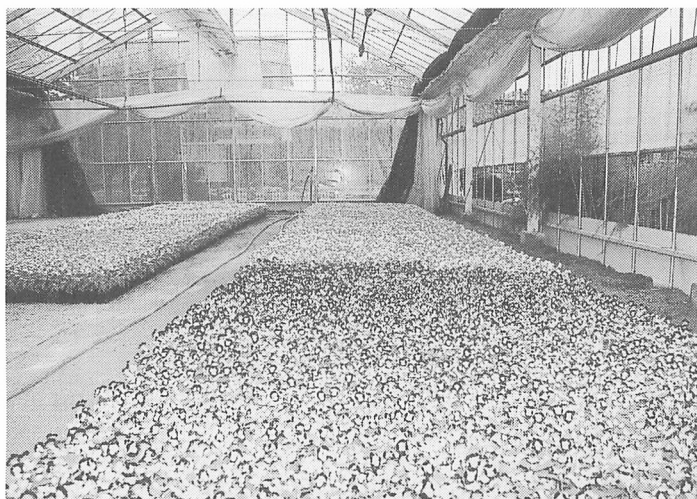
苗の根っこは土が育む

### 試行錯誤だった土作り

私たちは三重県で野菜や花のカップ苗を作っている専業農家です。

カップ苗作りは、一辺五ミリの枠が碁盤の目のように並んでいる発芽用シートに種を蒔く作業から始まります。蒔いた種は適温と水さえあれば数日で芽を出します。

根の先から新芽まで長さ五センチほどになった苗は、配合した土を詰めた黒いビニール製のカップに一本一本丁寧に植え替えます。植え替えは全て手作業で、さながら昔の田植えのよう



全て手作業で植えたカップ苗。写真はその一部

です。一日に何千本もの苗を植え替える作業には根気が必要です。

植え替えた苗が順調に育つかどうかは、まず「根がつく」かどうかで決まります。「根がつく」というのは、カップの中の土に根が馴染み、自分の住みかとなるよう根を伸ばしていくことです。根がつけば苗は土の中の水と栄養を吸収することができます。地上部の茎や葉も大きく育ちます。

根つきの善し悪しはカップの土で決まります。養分が少なすぎても多すぎてもいけないし、水保もちが悪くても水はけが悪くても、うまく育ちません。発芽したばかりの苗を育てる土は、厳しすぎてもやさしすぎてもいけないのです。

同じレシピの土でも、根がつくカップと根がつかないカップがあります。カップごとの違い



たなかったりしたときは、せっかく芽吹いた生命なのにと可哀相な気持ちになります。  
いい土を作るためには多くの試行錯誤がありました。

配合の基本となる山土はたくさん種類があります。黒いものや茶褐色のもの、また色は同

であれば混合が十分でなかったということも考えられます。しかし一〇〇以上もあるうちのあ  
る一列だけが苗の種類に関係なく枯れてしま  
うとか、根は立派に張っているのに地上部は全く  
育たないという不思議な現象もありました。

一つ一つ根気よく、同じことを何度も何度も  
繰り返す、ときには理屈で説明のつかないこと  
も乗り越えながら、生長する姿を見守る苗作り  
は、どこか子育てに似ています。

苗作りは土作りでもありません。そう気づくの  
に長い時間が必要ではありませんでした。丹念  
に植え替えた苗が土と馴染まず、しおれたり育

じでも産地によって性質が異なります。山土に混ぜる堆肥も牛糞、豚糞、鶏糞、ウズラ糞、腐葉土、オガクズなどさまざまで、同じ原料でも熟成度によって品質が全く違います。

数々の資材をいろいろ配合した結果、堆肥の善し悪しが苗の生長に大きく影響するということとが体験的にわかってきました。芽生えたばかりの苗はデリケートで、熟成が浅い堆肥を混ぜた土では根つきが悪く、出荷できるまで育たないことが多いのです。そのような不良苗は、たいてい根が枯れていたり伸びていませんでした。

山土と堆肥を混合後すぐにカップに充填し、その日のうちに苗を植えます。混合した土同士が馴染むように幾日もおく方が理想的なのですが、時間と場所が限られているため急いで作業をしなければいけません。ですからなおさら堆肥の熟成度が影響するのです。

混合した山土と堆肥を堆積し、熟成させることができればよいと考えて取り組んだこともありました。しかし大量の土を混合したり切り返す作業は重労働です。また苗を育てる場所も必要なので、大量の土を置いておくだけの場所を確保することさえ困難です。

混合土の熟成はあきらめ、堆肥だけでも自分で満足のいくものを作ろうと思いました。近くの農場から牛糞を譲ってもらい、堆肥作りに挑戦しました。今から思えばこの作業の方がずっと大変で、本業がそっちのけになりそうなほどでした。

そうこうするうちにお陰様で注文も順調に伸ばしていただきましたが、定時定量的に高品質の堆肥を作っていくことはなかなかできませんでした。

### サンバースで添え木不要に

ある種のナスビ苗は水を撒くと葉に降りかかる水の勢いでしな垂れ、添え木が必要でした。お客様は同じ苗でも大きな苗を好まれる傾向があります。私どもでは一カップが幾らという取引です。大きくして出荷しても余計に儲かるわけではありません。でも貧弱な苗は売りたいくありません。私たちは元気で丈夫な苗を、買って帰った方々が喜ぶ苗を作りたいのです。しかしそうはいっても何百もある小さな苗の一本一本に添え木をするのは気の遠くなるような作業です。

知人からサンバースを教えられたとき、見た瞬間に「これはスゴイ。使える」と思いました。堆肥作りの経験から、サンバースの熟成度はとても素人が片手間で及ぶレベルのものではないことが瞬時に理解できたのです。

使ってみますと予想以上の効果がありました。サンバースを本格的に使うようになった約五年前からは、その特別なナスビ苗に添え木がいらなくなったのです。手のひらの上に載せたカッ



きれいに咲きそろった花の苗

プを、茎が地面と水平になるまで倒し、また元の位置まで戻しても、苗は添え木なしで凜として立っています。

ほんの少し土を改良しただけで添え木の要らない丈夫な苗ができたのです。ナスビ苗の例は私が体験した中で効果が最も顕著だった例です。

そのほかにもサンバースの効果はいろいろと実感しています。まず葉の「色艶」がいいのです。農業に従事しておられる方ならすぐにわかると思います。次に、花の色を比べれば「鮮やかさ」が違うことがわかります。蛍光色というのでしょうか、赤い色でも輝くような赤い色、黄色い色でも素敵な黄色になるのです。

野菜は色艶だけでなく味も良くなります。

「藤波さんで使っている肥料を譲って欲しい」



と毎年訪ねてこられる方がいます。伺ってみますと、家庭菜園で野菜を作っているそうで、サンバースを使うようになってからは野菜が美味しくなり、今では欠かせないということです。

### 軽いカップ苗への改良

もっと喜んでいただける苗にするため次に取り組んだのが「軽いカップ苗」を作ることでした。一つのカップだけなら重い軽いというほどのものではありませんが、二四カップを一つのトレーに入れて持ち運んだりすると結構な重さになるのです。

昭和一桁生まれの両親やパートさん、出荷先のスーパーのパートさんにとっても、また一度に数カップを買い求められる消費者の方にも、持ち運びには軽い方が喜ばれます。そこで重い山土ベースの土から軽いピートモス（水苔）ベースの土へと切り替えていきました。

酸性が強いピートモスはそのままで植物の生育に適さないので、原産地で肥料成分を調整しているそうです。その中にサンバースを「適量」混ぜると前述したような効果があり、軽くても高品質で満足のいく土となります。

しかしこの「適量」を見つけるのには苦労しました。サンバースは工業生産品ではなく化学肥料のように栄養分などの分析値が常に一定ではありません。また栄養分をあまり必要としな

い花苗も増えてきたことから、それまでの野菜苗中心の土のレシピではうまく育たないということもありました。

より良い土の配合を見つけるために、岐阜県揖斐郡にある揖斐川工業株式会社さんのご協力もいただきながらさまざまな実験を行いました。5%刻みから始まり、後には1%刻みまで精度を上げて配合実験を繰り返しました。その結果、花苗から野菜苗まで共通して使えるレシピを見つけることができました。

山土ベースに比べ約三分の一の重さになった土を入れたカップ苗は、二四カップを載せたトレーでも女性が片手で軽々と持ち運べます。「根つき」も生育も順調で、野菜苗の販売を始めて約二五年で最も完成度の高いものになったと自負しています。

### 「藤波農園の土」も人気

数々の試行錯誤と実験を経て生まれた土の配合は、軽いうえに栄養分がバランス良く配合され、花から野菜まで百数十種類に使用しています（190ページの表参照）。苗作りの現場から生まれた土は「藤波農園の土」として袋詰めにして販売も始めました。

プランターの土を作るには、私たちが行ってきたように山土に有機肥料などを混ぜなくては



混ぜる手間がいらす、栄養バランスにも優れた「藤波農園の土」

いけません、「藤波農園の土」は混ぜる手間がいりません。袋を開けてそのままプランターに入れ、カップ苗を植え替えていただくだけです。既に土がある場合は、混ぜて使っていたとしても差し支えありません。

使用された方からは、春に植えたマリーゴールドが十二月の大雪の日まで次々と花を咲かせていたとか、綺麗な花がほんとうにたくさん咲いたんですと、喜びの声をいただいています。「藤波さんのトウモロコシ（苗）は特別な種類のトウモロコシですか」と聞かれたこともります。同じトウモロコシでも私どもの苗の方が美味しいトウモロコシができるのだそうです。

喜びの声やお便りをいただいた日は、日が暮れても嬉しい気持ちでいっぱいです。多くの方々に支えていただこうちに四半世紀がたち、五〇アールの敷地で年間一〇〇万カップが出荷できるようにになりました。

「苗作りは子育てに似ている」と申しました。この四半世紀の間に息子が大きく根を張れる

## 栽培品目例

胡瓜	よしなり胡瓜	茄子	接ぎ木茄子
長茄子	米茄子	小茄子	丸ピーマン
長ピーマン	ししとう	たかのつめ	トマト
接ぎ木トマト	キャロルセブン	イエローキャロル	ミニトマト
サンロード	スイカ	接ぎ木スイカ	小玉スイカ
えびす南瓜	黒皮南瓜	オクラ	プリンスメロン
黄瓜	パセリ	カリモリ	ツルムラサキ
へちま	トウモロコシ	枝豆	インゲン
落花生	キャベツ	ブロッコリー	カリフラワー
レタス	サニーレタス	ワンダーベル	ゴールデンベル
明日葉	モロヘイヤ	瓢箪	ブッチーニ
白菜	子持ち甘藍	春菊	サラダ菜
丸葉葉牡丹	百日草	日々草	ペゴニア
マリーゴールド	メランポジウム	ペチュニア	トレニア
ポーチュラカ	パンジー	カンパニュウラ	寒咲蛇の目菊
スターチス	キンセンカ	ピオラ	クリサンセマム
テルスター	ストック	プリマラコイデス	プリマラジュリアン

ような家庭を育ててきたかどうかについては、土作りほどには自信がありません。願うことは、他人様の喜びを自分の喜びとして受け止めることができよう、土のように種類の異なる数々の根を受け入れることができるような器を持った大人になって欲しいということです。

このような想いは私たちの両親も持っていたことでしょう。今の自分たちがそのような人格を備えているかと問われますと返す言葉もありません。農業という礎を残していただいた両親にただただ感謝するばかりです。

多くの方々と出会い、助けていただきながら育ててもらった私たちと農場です。今後もより多くの方々に喜んでいただけるような苗作りと土作りができるようにと願っています。

## ご注意

- 1 掲載文書は執筆時の生データを基にしていますので、推敲を経て実際に出版された文章とは若干違う場合があります。悪しからずご了承下さい。
- 2 リンクはどのページでも確認不要です。
- 3 商品宣伝・商用目的の引用についてはお断りする場合があります。
- 4 本サイトに掲載されている記事・コラム・解説文・写真・その他すべての無許可転載を禁止します。あらゆる内容は日本の著作権法及び国際条約によって保護を受けています。